

# 郵便やさんごっこ

東京女高師附屬幼稚園

宮 本 杏 子

## 一 目的と計畫

「お母さま、昨日おてがみ持つて来た郵便やさんが来ましたよ」と倉橋先生の御うたにもございますが、毎日々々配達される郵便、それを配達して下さる郵便やさん、それらに對する幼児の關心は決して少くないものと思ひます。私の組でもこの九月から郵便やさんごっこを始めていたので、今度の講習の竝地保育にも、郵便やさんごっこをして遊びました。こゝでその事について少し書いてみようと思ひます。

新しい教育の一特色として、社會的という事が重要視されていきます。これは學校内の限られた型にはまつた問題にとらわれず、廣い社會の生きた動きを對象として扱います。新しい幼稚園でも、この社會的という事が、大きな問題として取り上げられて行かなければならない事はいうまでもありません。郵便ごっこは、實際に生きて動いている社會——郵便、郵便局という物を扱つたものであり、その意味で云いかえれば「郵便社會ごっこ」であり、更に四角はつて云えば、

「社會的誘導保育郵便ごっこ」といえると思ひます。つまり他のお店やさんごっこと同じに、これを新しい「學校教育法の中の幼稚園の目標」の中に求めてみれば、その第三番目の「身邊の社會生活及び事象に對する正しい理解と態度の芽生えを養う事」によりどこを得ることが出来ると思ひます。身邊の社會生活及び事象（毎日おうちに配達される郵便や、お母様に手をひかれておともして行つたことのある郵便局など）について、それを自分達の世界へ持つてきて、ごっこにして遊ぶ事により、正しい理解と、態度の芽生えとを養おうというのです。正しい理解とは、郵便やさんがどんなかばんを持つていて、郵便局にはどんな物が置いてあるというような狭い意味の正しい理解ばかりでなく、郵便局の方がいらつしやる仕事やお骨折り——人と人との交渉をみることも正しい理解のうちに含まれると思ひます。そして、郵便やさんごっこをする事により、理窟ぬきで「お禮をいおうと思つたら……」という氣持になり、「みんなに澤山おてがみを、郵便やさんはご苦労ね」という社會感謝をふうわりと持つて

もらうのです。そしてこれが正しい態度であると思います。このように郵便やさんごつこは、大きくは直接社會ごつこですが、それまでの課程としては、ポストを作る、はかりを作る、ひき出しを作る等の製作や、繪も含まれ、窓口の對話や電話等では言葉の方面の事、その他数の計算、字の事などすべてが自然の形で、しらすしらすのうちに行われているのも大きな取りえでしょう。

## 一一 實地見學

幼兒には特にそうですが、こうしたふうわりとした理解や態度を感じてもらふ爲には、説明や理窟では駄目で、どうしても本當の物に接して幼兒自身に直接に經驗させるのが一番であると思ひました。幸い大塚仲町の郵便局が、幼稚園からも近いので、毎日幼兒四・五人から七・八人ずつ交替でつれて行く事になりました。こうしたちよつとした外行きにも、子供はあらゆる現實の社會面にふれて行く事は驚く程です。シロウインドウのガラスに自分の姿がうつつたといつては大笑い。おや先生も、お友達もうつつているよと、立止つてみると、そこは蛇屋さんで、蛇を暫く眺めたり、八百屋さんの前を通れば昨日のおやつのおりんごの話が出たり、お店の前に日向ぼつこをしていた猫を一人ずつかわりばんこに抱かせてもらつた事もあります。「ほら自動車が來ますよ」と危険を注意すれば「先生みちは左側を歩くのね」など、云ひ出す子もいます。そして外行きから歸れば、こういうことをお留守

番をしていたお友達へお話ししてあげたりする事も楽しい事でしょう。或はポストへ入れる葉書を用意しておいて子供に入れてもらつた事もありました。僕に入れておいて、私が入れると二三人でポストによじ上つて一通の葉書を投函してくれました。或は丁度朝A子ちゃんがお母さまにあて、葉書をかいたので、それを投函しに皆で出かけた事もありました。

「本當のポストへ入れるの？」子供はびつくりして半信半疑だつたらしい様子でした。二三日たつと、朝私が行くのを待ちかねて「先生、あのお手紙きたわ、本當にきたわ」とんできました。或時は丁度よく郵便やさんがポストを開ける時に行き合せて、ポストのおなかに澤山手紙や葉書がはいつているのをのぞかせてもらつたりした事もありました。郵便局の中では、じやまにならないようにしてよくみていただきます。そしてひき出しもある、はかりもあるよ、電話も作ろうね、と云う事になります。そのうちにも葉書を買ひに來る人、速達を出す人、貯金をしに來る人、時にはうまい工合に「電話をお願いします」と來る人も、小包を出しに來る人もあります。子供にお金で本當にはがきや切手を買つてもらつたりもしました。「葉書を買ひましょう」と五拾錢さつを一枚子供に渡します。「先生何故かうの？」「それで何枚買えるかしら。買える丈買つてちょうだい」そこで勇氣のある子供が二人窓口へ行つて背のびをして「葉書を下さい」「はい」と郵便局の女の人にはこゝして、おひき出しから葉書を出して下さい。「なあんだ、一枚か」かたずくの

んでみていた他の子達はがっかりします。「先生、葉書は一枚五十銭なの？」と大發見をする子もいます。こういつた光景を想像していただけると思いますが。ここでは貨物を見て製作に役立てるといふ狭い意味ばかりでなく、巧まずに生きた人と人との交渉がみられます。そして更に一步進んでは、交渉を見るばかりでなく、交渉を子供自身の中からだで經驗することが出来るのです。

仲町の郵便局は小さいので、區の本局へも行きました。こゝは電車に乗らなければならぬので、極く少數ずつしか行けませんでしたが、澤山集つた手紙をまとめてスタンプを押すところ、分類するところなどをみました。非常に澤山のお金が集まるのでその計算をしていられるところもみせていただきました。先刻、うちへの手紙を子供と一緒に投函してそれが着いた事を書きましたが、子供がおへやのポストへ投函しておいた葉書を、先生がそつと本當の切手をはつて本當のポストへ入れておいたりした事もあります。けれどもさつきのもこれも切手代が高いのでみんなの子供にして上げられないのは本當に残念でございます。

尙、郵便局のことなどについて説明を必要とする時などは都合よくこの組にはおうちが郵便局の方があるので、そのお子さんに質問してお話をしてもらうように致しました。

### 三 忙しい幼稚園郵便局

だいたい前おきが長くなりましたが、郵便ごつこに入る前に

もう一言、海組の仲町郵便局——つまり活動の舞臺について説明しておいた方がいゝと思います。兩側に袖のついたつたての真中あたりに窓口を二つあけたもので、部屋の一隅を區切つて郵便局のかこいを作りしました。かこいの中に椅子三つ。机。電話。自動ばかり。ひき出し（切手、はがき、はさみ等入つたもの）スタンプ等をおきました。一方部屋の他の一隅に疊を一枚しき、その壁に、もう一つの電話、郵便受け、状さし等をとりつけました。

#### 第一日（案——人形芝居・葉書投函・紙芝居等）

組で郵便ごつこを始めてから毎日、子供は郵便ごつこをするのを楽しみに登園します。この日も登園するや否や、二三人の子はすぐ郵便局の中にはいり込んで郵便局員が忽ち出来てしまいました。はじめのうちはお友達も少く、お客が來ないので郵便局員も手持無沙汰らしく、ひき出しをあげたりしめたりしていましたが、そのうち疊の上でおまゝごとが始まりますと、早速電話で活動始めました。同じ部屋の中で二つの電話で話すので、少し大きな聲を出すによく聞えます。郵便局の中のは自動式電話でダイヤルのついたもの、おまゝごとのおうちののは、ダイヤルのない呼出し式のもので、郵便局のKちゃんやガチャンと受話機を外して「ディーディー」と口で云いながらダイヤルをまわして、「もし〜」。ところがおまゝごとのおうちの人は、葉つばの御料理に夢中になつているのでなか〜通じません。「お電話がかかっていますよ」と先生が注意すると、お皿にお水をうつしていたS子ち

やんがびつくりして電話口へ出ます。

「もし〜、こちらは郵便局ですがあなたばどなたですか」

「S子です」

「ごちそうが出来たら持つて来て下さい」

「今つくつてゐるところですから、もう少し待つて下さい」

何と自然にいき〜としかもはつきり會話してゐる事でしょう。正しい膏葉の使用という事が、何の無理もなく面白く自然のうちに行われるのが電話遊びの大きな取りえであると感じさせられます。やがてごちそうができると女の子がお盆の上に草の葉や木の實のおいしそうなごちそうを盛つたお皿をのせて、郵便局のくどりから「はい、ごちそう」とおとゞけます。その後で、お禮の電話やら、お皿をとりて来て下さい、やらなか〜活渡です。そのうちお友達も大ぜい来て、あたりがさわがしくなり、部屋のうちでも電話の話がよくきこえなくなると、よくきいてもらうつもりか受話機の筒の方を口ヘラッパのようにあて〜どなつてゐる子もあつて「あらそれはお耳にあてる方ね」など注意をうけたりします。郵便局には、ごちそうをいたゞいてゐる途中からそろ〜とお客があつて、

「はがきを下さいな」「はい何枚」

「二枚」「いくらですか」

そこでお客さんはこそ〜と色とり〜のさいふをさぐつて、おさつを差し出します。この計算も始めのうちは、「百圓」とか「三百圓」とかでまかせで、お客さんは、さいふを

はたいて持ち金全部を出しても間に合いませんでした。そして氣の弱い子はべそをかいては、

「先生、はがき一枚かつたら、Uちゃんたら五百圓つていうんですもの、あたしお金がいなくなつてしまつた」ととゞけに來たりしたものでした。物すごいインフレです。けれども少し心臓の強い子がいて

「そんなのつてないよ」  
「そんなに高くはないでしょ」  
というと忽ち氣前よく

「そんなら拾圓でいいです」

と値下げしてしまいます。中には百圓だか拾圓だかはつきりしないあやしげなおさつで拂つてくる者もいますし、そんな時郵便局員も大ようで敢えてとがめようともしません。おつりを催促しますと、拾圓さつを出したのに、拾二・三圓もおつりをくれたりするから面白うございます。けれども、私はその時一々教えたり、計算のしなおしをさせたりしない事にしています。勿論お金の計算も數の觀念も、わかつてくれるに越した事はありませんが、そこで一々干渉したのでは、子供の方は全くやり切れないと思ひます。せつかくの興味半減興ざめしてしまふことでしょうか。中には計算の出來る子が「君々、拾圓出して二圓だからおつりを上げなくちゃ」「そんなに澤山おつりはいらぬよ、八圓でいいんだよ」とか、又

「五十錢さつ二枚出せばいいよ」

とか、さかんに世話をやいて歩いたりしていました。これは先生が干渉するのとは又わけが違つて、その間に何か得るところがあれば嬉しいことと思つてみていました。子供は始めのうちはただ面白く遊んで下さればいいのです。賣つたり買つたり、それ丈で大きな社會遊びではないでしょうか。けれどもそれかといつて、自然に／＼とほつたらかしておくのもありません。それには先にも書いた「外行き」が大きな役割りを占めて來ると思ひます。子供は郵便局で實際お客さんがはがきを買うのを見、その時どんなお金が手渡されたかを見るかもしれません。又さつきも子供にはがきを買わせた事などをのべました。こういう事が段々と刺戟になつて遊びの中にも、正しい物の値段が認識されていく事を望んでいます。けれども今のところわからない子が大部分あります。時には私も葉書買いの列に並んで、わざと「葉書一枚五十錢でしたね」とかそしらぬ顔で問答してそれとなく教えたりもする事があります。はがきを買うお客にしても、はじめは窓口で押し合ひでけんかをしていましたが、私が別に干渉もしませんでしたが、この混雑には郵便局員の方でひめいを上げて「一列になつて一人ずつ來なければ賣りません」と宣言していたようで、おとなしく順番で買うようになりました。

この日はポツ／＼と買ひに來たので列をくむ程には繁昌しませんでした。買つたはがきに「ちやんが何やら書き始めます。他の子はめい／＼のひき出しへしまつたようです。又おま／＼このおうちに、

「はがきを買つて來ましたよ」と持つて歸つてゐる子もあります。

そのうち人形芝居が始まります。お芝居が終つてから、今みた人形芝居の事を、おうちの方におしらせしたり、おもしろかつたのねとお友達とお話をする葉書を出しましょうという事になります。今まで集まつていた組がほゞけて、郵便局員になる者（もつとも郵便局員は非常に郵便局の中が氣にいつたらしく、人形芝居の間も「ここからみるの」など云つて郵便局の椅子からはなれようともしませんでした）葉書を買つて書く者、外遊びをしたい者などに分れます。さつき葉書を買つた者は、「先生、僕はさつき買つたのがしまつてあるの」と嬉しそうにひき出しから出してきます。はがきを買う者はひき出しにとんで行つてさいふを持つて郵便局へかけつけます。字の書ける者は早速何やら考え／＼書き出します。ひらがなの書けない子は片かなで書くし、字のかけない者は繪はがきをかきます。字がまだ自由でないので「先生、せと／＼字はどうかくの」など字についての質問がとび出します。そんな場合、私は紙を用意しておいて目の前でゆつくり書いてみせたり、又手を持つて書いて上げたりします。幼稚園だから決して字を教えるのはいけないという事はないと思ひます。しかもこれは教えるのではなくて、必要にせまられて困つてゐるのにおつたをしてあげるのです。これで覺えて下されば幸と思つていますが、あくまでおつたであつて、内容、文章等についても、今のところあまり干渉しない

ことにしています。あの不自田な字で書き表わそうとする努力だけでもいじらしいもの、尊いものだと思えます。出来たらその方面にも進めたいのです。しかし時には、いわゆる大人の型にはまらない、歪直な面白いものが出来ます。「Kちゃん、ひとりであそんでばかりいないで僕とも遊ぼうよ。まっつてね」などです。この他に子供に口でいろく云わせて先生が代筆するのも面白いお手紙が出来る事でしょう。

この時の繪はがきの方の繪は、女の子の繪、草花の繪等。S子ちゃんはお人形芝居の舞臺をかいて熊さん、お猿さん、女の子二人、背景にお山とおひさままでかいてなか／＼面白いものができ上ります。はがきの表裏や、自分の名前、宛名をかく場所等は、書く前ちよつと注意して上げるといふと思えます。自分の名前を眞中に書いたのでせつかく出したお手紙が、自分のところに歸つて配達されたりして大笑いしたこともありました。書き上げた葉書は大喜びでポストへ入れに行きます。(子供の葉書をかいている間、先生も急いで子供と一しよになつて葉書一枚書きました)ポストは明日あけましようねと約束します。一枚投函してもう一枚書くといつて葉書を買うに行く者もいます。

一方、葉書を買つて残金が心細くなつたのか「お金を作りたい」と云い出して、紙をねだつて紙幣をこしらえているグループもあります。電話をかけさせて下さいと郵便局へ行く者もあります。

これより先、郵便局では、皆が買つて行つてしまつたので

葉書がなくなりかけて來ました。そこで郵便局員が恐慌を感じて「はがきを作るんだから紙をちようだい」とやつてきました。そして紙を持つて郵便局へひきかえして行きましたがそれつきり大へん靜かになりました。果して葉書が製造されているかどうか、中の様子が氣になりますので、私がおま／＼ごとの御うちから電話をかけます。

「ジージー、チリ／＼／＼忙しいとみえてなか／＼通じません。「もし／＼、チリ／＼／＼」

何回もどなつた末、やつとY子ちゃんが出たらしい様子です。「もし／＼、さつきからお電話かけていたのですが、なかなかかゝりませんでしたよ」

「はい、今大いそぎではがきを作つているところで忙しいんです」

「あゝ、そうですか、出來たら知らせて下さいね」

「えゝ、出來たら又お電話おかけします」

「お願いします」と云い終らないうちに、

「さよなら、チーン」

と電話は切れてしまいます。しばらくして、大體の者が葉書を書き終つた時分「はがきが出來ましたから、買いに來て下さい」と電話がかかつて來ました。それから皆集つて紙芝居をみます。その後お歸り。「明日ポストをあげると君のところへ葉書が行くよ。だつて僕が今日書いて入れたいんだもの」などという子もあつて、皆明日を楽しみにしているようでした。(次號完結)